

リチウムエナジージャパン(滋賀県栗東市)
リチウムイオン電池の提供
ミツバ(群馬県桐生市)
モーターの支援
長島製作所(一関市)
バッテリーコンテナの板材の加工支援

独自の駆動部
TVD

千田精密工業(奥州市)
ケーシングの加工・技術提供
匠(花巻市)
内部構成部品の加工支援
三幸歯車工業(宮城県利府町)
歯車の加工・技術提供

日信工業(長野県東御市)
キャリバー・ブレーキパッドの提供

市光工業(神奈川県伊勢原市)
ブレーキライトなどの提供

エヌケーエヌ(大阪府東大阪市)
ドライブシャフト製作の支援

(注) 県名がないのは全て岩手県



モディー(一関市)
カウルの製作支援

イワフジ工業(奥州市)
フレーム製作の技術提供

全国に根を張る高等専門学校(高専)。その高い技術力を地域社会に役立てようとする

高専に任せろ

第2部 社会につながる①

「社会実装教育」が脚光を浴びている。学内に籠もらず、町に出て社会の声を聞く。吸収力、感度の高さが社会の成長へと昇華する。若い力、ゴールデンエイジのなせる技だ。「高専に任せろ 第2部」は若い力の奮闘の舞台取材する。

実学が夢を鍛える

30社の技術結集、EVレース制覇

「何を作り」「いかに解決」教える

▼社会実装教育 地域社会、企業などからニーズを把握し、それを工学的な言葉に置き換えて機械やサービスを開発する教育方法。知識の詰め込みではなく、「何を作り出すか」「いかに問題を解決していくか」に力点を置き、新たな基幹産業につながるイノベーションの創出、

人材育成を目指す。その分野は幅広い。高齢者、障害者などへの生活支援、商店街の活性化、社会インフラの管理、ロボット、ソフト開発など多岐にわたる。取り組みは1年で終わらないこともあり、後輩たちに受け継がれ磨きを掛けていくケースもある。

学生フォーミュラ大会2連覇に向けてEVの開発に余念がない一関高専の学生たち(前列右がリーダーの中津川壮さん)



「今年がガソリン部門北新幹線に飛び乗り東京を上回る実績をあげて、へ。横浜で始まる自動車電気自動車(EV)部門業界の展示会に参加し、で2連覇を目指します。第一線のエンジニアたち皆様からの一層のご協力と情報交換するためだ。をお願いいたします」

岩手県北上市で23日開かれた、いわて自動車・半導体関連産業集積促進協議会の合同総会。一関工業高専の中津川壮さん(20)がEVに関心の高い約200人の自動車・半導体業界の関係者を前に話し終えるとその足で東

活躍に目細める 地域のニーズと高専の持つ人材・技術の融合をフォーミュラ大会で昨校でつくる岩手連合学生フォーミュラチーム(SIFT)がEV部門で総合優勝したからだ。参戦2年目の快挙だった。優勝後、連増拓也岩

納期・予算 厳しさも肌で

その際、中津川さんはこう言って頭を下げるといふ。「チームのメンバーはEV開発を実践で経験して社会人となりま

その一方で、中津川さんはこう言って頭を下げるといふ。「チームのメンバーはEV開発を実践で経験して社会人となりま

その一方で、中津川さんはこう言って頭を下げるといふ。「チームのメンバーはEV開発を実践で経験して社会人となりま

手裏知事は「岩手の学生が高い技術を持っていることを示した」と評価した。中津川さんは中心メンバーの一人で、今年プロジェクトリーダーとしてチームを引っ張る。

大会は学生が仮想ベンチャー企業として車を企画、設計・製作し総合力を競う。中津川さんたちは岩手県内を中心に自動車部品・半導体・合金加工会社などに資金や部品の提供などをお願いして回る。今年30社以上のスポンサー獲得を目指している。

だから高専のゴールデンエイジは強い

- その1 15歳の1年生から専門教育をたたき込まれる
- その2 本科生(1~5年)と専攻科生(1~2年)が同じ環境で学べる
- その3 産業の社会的変化に合わせて教育カリキュラムを柔軟に変える
- その4 実業を知る教員が多く、社会人としての基本作法も学べる
- その5 約50年の歴史を持つ学校が多く、地元からの信頼も厚い

ラ大会は安全のため車検を通すことが条件。大会には106チームが参加したが、回路の数値測定などが難しいEV部門は13チームにとどまった。

大人たちの熱い視線が注がれるのは一関高専が独自技術を持つからだ。世界初の駆動方式「2モータートルク差増幅型TVD」は旋回中に外輪に多く駆動力を配分して旋回性能を飛躍的に高める

「常識を覆す」 東北は産学官連携による自動車関連産業の振興、集積に約10年前から取り組んできた。岩手県は文部科学省から12年に「地域イノベーション戦略推進地域」に指定され「次世代モビリティ開発拠点」として自動車関連技術の開発支援や技術者育成事業が始まる。一関高専の教授陣や学生の技能に白羽の矢が立った。

企業との二人三脚だ。徐々にその姿を現しつつある大会参戦マシン(IF17)。今年のコンセプトは「常識を覆すEV」。出力は前年の1.7倍、車体全体の設計を見直して機械部品全体で100kg近い軽量化に成功。TVDも新規設計により大きなトルクをタイヤに伝える。「必ず勝ちます」。中津川さんはゴールデンエイジの可能性、潜在能力に自信を持っている。

取材班は西へ飛んだ3面に続く

「常識を覆す」 東北は産学官連携による自動車関連産業の振興、集積に約10年前から取り組んできた。岩手県は文部科学省から12年に「地域イノベーション戦略推進地域」に指定され「次世代モビリティ開発拠点」として自動車関連技術の開発支援や技術者育成事業が始まる。一関高専の教授陣や学生の技能に白羽の矢が立った。